54-71. Nakai, T. 1925. Bot. Mag. Tokyo **39**: 193. Ninan, C. A. 1956. Curr. Sci. **25**: 161-162. —— 1958. Cytologia **23**: 291-315. Nishida, M. 1959. Journ. Jap. Bot. **34**: 33-47. Sahashi, N. 1969. Journ. Jap. Bot. **44**: 48-53. —— 1977. Nippon Shidagakkai Kaiho **48**: 2-3. Verma, S. C. 1957. Cytologia **22**: 393-403.

* * * *

西田は1975年の秋，当時静岡大学教授であられた志村義雄氏から，掛川市内の墓地で採集された小型のハナヤスリの同定を依頼された。志村氏によりエンシュウハナヤスリと仮称されていたこの植物は ①染色体数が n=120 である。②コハナヤスリより小形の胞子をつける。③根茎が多少とも塊状になる。④栄養葉の2次脈がほとんど発達しない。⑤植物体はたいそう小さく，葉は鋭先形となる。⑥担葉体が短かく，したがって葉身が地表に接している，などの特徴から新種 *Ophioglossum parvum* として取扱う。東邦大の佐橋紀男氏が青ヶ島で採集された小型のハナヤスリも，同氏の好意による検討の結果，同一種であることが判明した。

なおこの植物は1905年に川崎光次郎氏により伊勢四日市で採集されたハナヤスリ［牧野標本館 No. 116-6 (4110)］と同一と思われ，これには同氏によりチャボハナヤスリなる和名が付記されている。また牧野富太郎氏はこのタイプのものをヒメハナヤスリと呼んでいたようであるが正式の報告はない。したがって，志村義雄氏がエンシュウハナヤスリと仮称してきたこの植物の和名として，川崎氏のいうチャボハナヤスリを採用するものである。

□三浦宏一郎・徳増征二（訳）：**菌類と人間** (Cooke, R. C.: Fungi, man and environment) 249 pp. 1980. 共立出版，東京. ¥1,600. 共立科学ブックス44。生物界の大群である菌類について，その生活，他の動植物とくに人間との関わりを幅広く紹介し，菌類が何を行ない，いかにわれわれにとって重要であり，いかに現在研究されているかを述べた本である。どの項目にも豊富な話題が巧みに述べられていて，私のような菌類に弱い者にとってもまことに興味しんしんたるものがある。訳者はそれぞれ専門の菌学者であり，訳文は読みやすく理解しやすい。内容の輪郭を紹介する意味で，次に各項目の表題を掲げる。1. 新しい生物界。2. 菌類の栄養物質と生態的地位。3. 作物の菌類病。4. 共生関係と二重生物。5. ヒトや家畜の真菌症。6. 生物農薬としての菌類。7. 菌類と昆虫の不思議な共同生活。8. キノコ毒とカビ毒。9. 菌体蛋白質の利用と加工食品。10. 魔法のキノコと幻覚剤。 （伊藤　洋）